

立ち退き避難？垂直避難？

決めるのは自分自身

旧・坂嶺小校区で防災訓練実施

11月23日、旧・坂嶺小校区で地震・津波を想定した防災訓練が行われた。今回は町と内閣府が主催。県、喜界事務所、自衛隊および気象庁が連携し、委託業者の（株）ランドブレインの運営で実施された。

午前9時、奄美群島太平洋沖北部でマグニチュード8.2（震度6強）の地震が発生。2分後に大津波警報発表という想定で行われ、9時5分の防災無線放送で住民は高台避難の流れを確認した。



その後、住民は旧・坂嶺小学校に集まり、そこでは各専門家の講話があった。鹿児島大学共通教育センターの岩船教授は、東日本大震災時の津波が押し寄せたときの状況を動画を用いて解説。また、電柱が倒れていたり、道路が陥没するなどして車が通れないことも起こり得るため、避難しているときに危険な状態であることや、状況に応じて高台への「**立ち退き避難**」と、頑丈な建物の2階以上へ上がる「**垂直避難**」の2つを説明。判断の目安として、地震発生から津波到達までが**30分**であれば**立ち退き避難**、**15分**程度であれば**垂直避難**と、**自身での判断**、**自助**が重要と語られた。

万が一に備えて、自宅の家具家電は固定（壁に固定だけ

だと壁が抜けることもあるため、可能なら柱へも）、寝室には高いタンスなどを置く、下敷きになるおそれがあるが、寝床の横に低めのタンスを置く、他の家具などが落ちてきても隙間ができ助かる可能性が高くなること、転がらないペットボトルがあれば72時間の壁（被災後3日過ぎると生存率が著しく低下するため、その境界のこと）を乗り越えられることも語られた。



岩船教授

続けて、気象庁名瀬測候所地域防災官の阿見氏が、「県が想定している奄美群島太平洋沖地震（北部）が発生した場合、喜界町では最大震度7、津波が4分後に到達し、最大津波高5m超が22分後に到達する。」「南海トラフ地震が発生した場合、喜界町は最大震度2、最大津波高約5mを想定。

仮に発生すると港設備が損害を受け、さらに本土がより甚大な被害を受けることになるため、物資が供給されにくくなるおそれもある。」と語った。

そして、喜界島ジオパーク推進協議会の駒越氏による「喜界島の地質を知り、災害に備える」と題した講話もあり、サンゴ礁の特性や喜界島の地質についての説明があり、「地域の特性を知りレジリエンス（回復力、立ち直る力）を高め、いくこともジオパーク活動の1つの手ではないかと思う。」と締めくくった。

その後は、消防署員によるけが人を人力で輸送する際の担ぎ方の実演があり、さらに自衛隊奄美警備隊の炊き出し訓練としてカレーライスが振る舞われ、長い行列ができていた。今回、初の試みとして陸上自衛隊奄美警備隊による物資輸送訓練も行われた。隊員は早朝4時に自衛隊喜界

島通信所を出発、浦原へ下りて南回りで旧坂嶺小までの距離を徒歩で進み、大規模災害で交通網が遮断された際の物資輸送を想定して実施された。

町では、年一回集落での防災訓練を実施している。問い合わせは役場総務課へ。

喜界町ハザードマップは左のQRコードから確認可能（HPへ移動）。

